

町田市長
石坂 丈一 様

2023年度

町田市環境マネジメントシステム

外部評価報告書

(評価対象年度：2022年度)

2023年12月14日

町田市環境マネジメントシステム
外部評価委員会委員長 松波 淳也

はじめに

町田市では、市職員が率先して地球温暖化の防止に取り組むため、「町田市第5次環境配慮行動計画（地球温暖化対策実行計画「事務事業編」）」を策定し、削減目標を掲げ、市役所自らの事務事業に伴って排出される温室効果ガスの削減に職員全員で取り組んでいます。さらに、廃棄物の削減や省資源等の環境負荷低減の取組も行っています。これらの取組を推進する仕組みとして「町田市環境マネジメントシステム」を構築し、運用しています。

町田市環境マネジメントシステムでは、運用状況と実績を客観的に評価することを目的として、市民・事業者・学識経験者で構成された「町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会」を設置しています。

本報告書は、2023年度に実施された外部評価結果をまとめたものです。

目次

1. 外部評価の方法等	4
(1) 外部評価委員会の構成	4
(2) 評価対象	4
(3) 評価内容	4
(4) 実施方法	5
(5) 外部評価委員会に提示された文書及び資料等	5
2. 外部評価委員会の実施日程及び実施内容	6
3. 外部評価結果	7
(1) 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量	8
(2) 資源（市庁舎の廃棄物）	9
(3) グリーン購入達成率	10
(4) エコオフィス活動（職員共通）	11
(5) エコオフィス活動（施設担当部署）	12
(6) 運用状況（研修の実施、環境法令の遵守、情報公開）	13
4. おわりに（まとめ）	14

1. 外部評価の方法等

2023年度 外部評価委員会

2023年度の外部評価委員会は、10月から11月にかけて計2回開催し、外部評価委員による環境マネジメントシステム外部評価を実施しました。

(1) 外部評価委員会の構成

- ① 構成：市民3名、事業者3名、学識経験者3名の計9名の委員
- ② 任期：2年（現委員の任期は2022年9月から2024年3月）

(2) 評価対象

- ① 組織：全庁全課（市立の小中学校を含む）
- ② 活動：「町田市第5次環境配慮行動計画」に基づくエコオフィス活動

(3) 評価内容

2022年度の活動に対する評価

① 環境パフォーマンス

温室効果ガス排出量、エネルギー使用量、廃棄物排出量等のパフォーマンス

② 環境活動状況

各職場におけるエコオフィス活動及び運用状況（研修の実施、環境法令の遵守状況、情報公開）

評価項目		評価基準	
評価項目	評価内容	評価点	評価内容
温室効果ガス排出量 エネルギー使用量	・目標達成状況 ・経年変化状況	5	評価できる
資源（市庁舎の廃棄物）	・経年変化状況	4	概ね評価できる
グリーン購入達成率	・経年変化状況	3	普通
エコオフィス活動（職員共通）	・各職場の活動状況	2	あまり評価できない
エコオフィス活動（施設担当部署）	・各職場の活動状況	1	評価できない
運用状況（研修の実施、環境法令の遵守、情報公開）	・実施状況 ・自己点検結果、 是正対応状況		

1. 外部評価の方法等（つづき）

(4) 実施方法

項目	具体的内容
① 基礎情報の提示と説明 (第1回外部評価委員会)	事務局が、環境マネジメントシステムの運用状況及び成果を示す(5)の文書及び資料を第1回外部評価委員会(集合・リモート形式の併用)にて外部評価委員に提示し、内容を説明する。
② 質問・意見の収集	外部評価委員は、事務局より提示された文書及び資料を精査し、評価に向けた質問や意見を事務局に提出する。
③ 現地確認の実施	外部評価委員は、現地による確認が必要であると判断した部署および施設を訪問し、取組み状況等を確認する。
④ 評価方法の説明 (第2回外部評価委員会)	事務局は、外部評価委員からの質問・意見を取りまとめ、第2回外部評価委員会(集合・リモート形式の併用)にて提示し、評価方法を説明する。
⑤ 評価の実施	外部評価委員は、事務局より提示された文書及び資料を基に(3)の評価項目ごとに評価基準にしたがって評価点と評価意見を付し、事務局に提出する。
⑥ 外部評価報告書のとりまとめ	事務局は、評価結果を取りまとめる。 外部評価委員会は、全ての評価結果を精査し、外部評価報告書として取りまとめる。

(5) 外部評価委員会に提示された文書及び資料等

- ① 町田市環境マネジメントシステム2022年度実績報告書
- ② 2022年度町田市環境マネジメントシステム外部評価報告書
- ③ 町田市環境マネジメントシステム2022年度外部評価委員会指摘事項とその対応状況
- ④ 上記文書及び資料に関連するデータ等

2. 外部評価委員会の実施日程及び実施内容

2023年度の外部評価委員会は集合形式及びリモート形式の併用で開催しました。実施時期及び内容は下表のとおりです。

区分	日時	内容
第1回評価委員会 (集合・Web開催)	10月6日	(1) 2023年度外部評価の進行について (2) 環境マネジメントシステム2022年度実績について
一次評価、質問・意見 収集	10月6日 ～ 10月20日	各委員からの一次評価及び質問・意見を収集
現地調査	10月26日	14時00分～16時10分 町田市バイオエネルギーセンター
第2回評価委員会 (集合・Web開催)	11月10日	2022年度実績の評価について (第1回委員会での質問に対する回答及び一次評価について)
最終評価	11月10日 ～ 11月24日	各委員による評価の実施
外部評価報告書 とりまとめ	11月11日 ～ 12月13日	評価結果と併せ、市長への報告

3. 外部評価結果

外部評価委員による各評価項目ごとの評価点（平均点）は次のとおりです。

資源（廃棄物）とエコオフィス活動（施設担当部署）が4.6点と高めの評価となり、グリーン購入達成率が2.4点と低めの評価となりました。

評価項目	評価内容	評価点（平均点）
温室効果ガス排出量 エネルギー使用量	・ 目標達成状況 ・ 経年変化状況	3.5
資源（市庁舎の廃棄物）	・ 経年変化状況	4.4
グリーン購入達成率	・ 経年変化状況	2.4
エコオフィス活動（職員共通）	・ 各職場の活動状況	3.9
エコオフィス活動（施設担当部署）	・ 各職場の活動状況	4.6
運用状況（研修の実施、環境法令の遵守、情報公開）	・ 実施状況 ・ 自己点検結果、 是正対応状況	3.3

評価基準

評価点	5	4	3	2	1
評価内容	評価できる	概ね 評価できる	普通	あまり 評価できない	評価できない

3. 外部評価結果

(1) 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量

評価項目ごとの評価点（平均点）及び主な評価意見は次のとおりです。

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
温室効果ガス 排出量・エネ ルギー使用量	3.5	<ul style="list-style-type: none">◆ 2013年度比29.8%削減とますますの成果が得られているが、2022年度からの町田市バイオエネルギーセンターでの発電利用開始という特殊事情も考慮すると、更なる取り組みが求められる。◆ 温室効果ガスの削減には、下水処理場におけるバイオ発電による電気使用への切替えや清掃工場の建替えにともなう町田リサイクル文化センターにおける電気使用の終了といった状況の変化が大きく寄与している。今後こうした新たな大幅削減策を期待するのは難しいであろうことからすると、来年度以降も2030年目標に向けた着実な排出削減が実現できるか懸念されるところである。◆ 2019年度からは随意契約分も含めて、排出係数実績値が環境省が示す代替値未満の複数事業者から見積もりを徴収するようルールを統一化したことは、低炭素電力の調達に資する取組みとして評価できる。一方で、調整後排出係数が契約時に用いた基礎排出係数を上回ってしまうケースがあり、想定よりも削減効果が得られないという状況がある。この点は、市が予見しコントロールできる余地はないものの、結果的に代替値以上となった事業者についてはその要因を把握しておくとともに、同一事業者でそうした状況が続くような場合で要因如何によっては次期契約対象から除外するとか、入札において劣後させるといった、何らかの対応策も考えられるのではないか。◆ 前年度比でも温室効果ガス排出量は17.3%削減された。庁舎で電力使用量の削減やCO2排出係数の低い電力を利用し削減を図られた。小・中学校では電力使用量が増加したもののCO2排出係数の低い電力を利用し排出量を削減された。2013年度比29.8%と評価基準では「3」だが、総合的に「4」と評価した。引き続き目標達成に向けた取組みを継続していただきたい。◆ 2030年に向け高い削減目標を設定したことに加え、CO2排出係数の低い電源導入を推進していることは評価できる。◆ 改善の余地はあるものの「決まったことはできている」と感じた。バイオセンターの功績や失敗は、後続の都市・施設にフィードバックし生かしてほしい。

3. 外部評価結果

(2) 資源（市庁舎の廃棄物）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
資源（廃棄物）	4.4	<ul style="list-style-type: none">◆ 市庁舎の廃棄物排出量、2019年度比13.7%削減と成果が達成されているが、今後の更なる取り組みのために、目標値の更新の必要がある。◆ 確かに第5次環境配慮行動計画では2025年までに市庁舎（本庁舎）から排出される事業系ごみを2019年度比で10%削減することを目標としているが、同時に取組内容として「市で管理している施設から排出される事業系ごみの削減」を記載している。さらに、同行動計画の目標値の根拠を提供している第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプランでは、「公共施設から排出される事業系ごみの削減」として10%の削減目標値を掲げており、これは市庁舎に限定した目標値ではないものと考えられる。そうすると、今回の町田市環境EMSにおいて市庁舎から出る事業系ごみだけを対象として把握するだけで良いのか疑問が湧く。例えば2021年度では市庁舎の事業系のみ限定すると、市施設から出る廃棄物量全体のわずか5%強の数値しか把握しないことになってしまう。せめて参考値として市施設全体の廃棄物量とその内訳、再利用率をこれまでと同様にフォローしていく必要があるのではないか。昨年度指摘した「その他一廃」や「その他産廃」のより詳細な組成分析とそれを踏まえたさらなる再利用率向上に向けた検討にもつながらないおそれがある。◆ 2022年度という早い時期に10%削減の目標値が達成できたことは大いに評価される一方で、この数値で固定してしまうことの妥当性やさらなる削減可能性についても今後数年の状況を踏まえて検討していく必要があるのではないか。◆ 2019年度比13.7%削減と大きな成果を上げるにあたり、業務においては文書の起案・決済の電子化、ビジネスチャットの活用、タブレットを使用した文書の電子共有の普及で紙購入量を削減し、事業系のごみはリサイクルを行うなど、ごみを出さない取組みは評価できるため評価基準に照らし合わせ「5」と評価した。引き続き更なる削減努力をお願いしたい。◆ 市庁舎という意味ではよくできていると認識している。

3. 外部評価結果

(3) グリーン購入達成率

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
グリーン購入 達成率	2.4	<ul style="list-style-type: none">◆ 82.3%と前年度比1.2ポイント向上したとはいえ、そもそも100%が望ましい。◆ 2022年度は、小・中学校におけるグリーン購入達成率が前年度比1.8%の向上は評価できるが、非適合品購入の「その他」(18.0%)のうち、「意識しないで購入した」という理由でグリーン購入に至らなかった記載がある。購買を担当する方の意識高揚に繋がる研修や意識調査等、属人的な要因を最小化するための取組みが必要と考える。過去2年間における経年変化を加味すると、徐々にグリーン購入率は向上しているが、評価基準に基づき「2」と評価した。◆ 実質的にグリーン購入調達率は「小・中学校」の割合が支配的なため、個別品目調査とその購買理由、代替の可否など集中的な調査検討と改善方法の情報共有を検討してもらいたい。◆ 取組みに差があり、実態が認識しきれていない(やっている途中)と認識した。◆ 前年に比べて改善がみられる。グリーン購入達成率の向上も重要であるが、本来は「購入の必要性を考え」た上での購入であるので、新たに購入する品目だけでなく過去に購入したものを有効活用しているなどについても、把握できるとよいのではないだろうか。

3. 外部評価結果

(4) エコオフィス活動（職員共通）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
エコオフィス活動（職員共通）	3.9	<ul style="list-style-type: none">◆ グリーン購入以外は、かなりの取り組みがなされている。◆ 各職場のエコオフィスサポーターが評価されていると認識しているが、グリーン購入項目が低いようだ。目標達成に向けた取り組みにもあるようにエコオフィスサポーターの変更時に大きな差異が生じないような取り組みと節電やグリーン購入における意識高揚の取り組みを進めていただきたいと考えるが、取り組みにさまざまな工夫が見られる等、その意識の高さで「4」と評価した。◆ 各職場地道な活動に取り組まれている点は評価できる。◆ 取り組み例を見る限り、「できるだけ」など内容があいまいなところが低い点数の一因ではないかと感じた。

3. 外部評価結果

(5) エコオフィス活動（施設担当部署）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
エコオフィス活動(施設担当部署)	4.6	<ul style="list-style-type: none">◆ 概ねかなりの取り組みがなされている。評価者の基準にブレがあるようなので、評価基準を統一する工夫が必要である。◆ 取組み全般において高い実施率となっており、「5」と評価した。昼休み時の照明消灯の実施については継続的な啓蒙活動が大切だと考える。この際、消灯時に足元が見えにくくなって事故に繋がるリスクもあるため、通路の整理整頓にも注力していくべきだと考える。◆ 昼休み時の照明消灯の実施で改善したとはいえ低すぎるのが気になる。昼休みの消灯は数十年前からの省エネ対策で常識化している筈。特別な理由があれば提示してほしい。◆ スコアだけならば5。ただし、足を引っ張っている項目があり、それが昨年と同じであったため、-1とした。

3. 外部評価結果

(6)研修の実施、環境法令の遵守、情報公開

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
運用状況 (研修の実施、 環境法令の遵 守、情報公開)	3.3	<ul style="list-style-type: none">◆ 環境法令遵守以外は、かなりの取り組みがなされている。本来、環境法令不適合はあってはならない事項である。環境法令不適合ゼロが基本であることを徹底すべきである。◆ 研修の実施については、それぞれの役割ごとに動画視聴を取り入れ昨年度より高い出席率になったこと、またe-ラーニング研修実施率の100%は大変評価できる。継続した取組をお願いしたい。環境法令においては行政として遵守することは必須だと考える。チェックリスト等の活用により見落としの防止や、環境法令遵守の知識向上を更に高めていただきたい。取組み全般においても高い意識が見られ、「4」と評価した。◆ 2023年度中には全て適合するよう改善予定を確実に実施してください。◆ 違法状態の解消の計画立案ができたのは評価に値するが、だからと言っていい点数がつけられない。ただ、Eラーニングは就労者に対して100%が基本であると前年指摘したが、これについては改善されているようすばらしい。

4. おわりに（まとめ）

町田市環境マネジメントシステムは、環境配慮行動計画に基づく市の温室効果ガス排出量削減目標を達成するため、市の全施設・全職員を対象範囲とし、環境活動を進行管理する仕組みであり、「市民等の第三者による外部評価」「取組実績、内部環境監査結果、外部評価結果の開示」等の透明性の高い評価プロセスを取り入れています。本外部評価においては、数値データや点検結果をとりまとめた実績報告書等を精査し、運用状況を確認しました。

特に評価できる点は以下のとおりです。

- ・ **研修の実施**（実績報告書P15参照）
e-ラーニング研修実施率が100%を達成した点が評価できます。
- ・ **温室効果ガス・エネルギー**（実績報告書P9参照）
温室効果ガスは前年度から17.3%削減できました。町田市バイオエネルギーセンターでのバイオガス発電の稼働開始など、画期的な取り組みがされている点が評価できます。2030年度の目標達成に向けて、引き続き努力が必要です。

改善が必要な事項は以下のとおりです。

① 環境パフォーマンス

- ・ **資源（市庁舎の廃棄物）**（実績報告書P10参照）
廃棄物排出量は2019年度比13.7%削減し、目標を達成した点は評価できます。しかし、計画の改定に伴い、全体の95%を占める市庁舎以外の廃棄物の排出量が把握されていないため、参考値として把握することが望ましいです。また、すでに削減目標を達成していることから、目標値の見直しを検討することが期待されます。
- ・ **グリーン購入達成率**（実績報告書P11参照）
前年度より達成率が向上していることは評価できます。今回、達成率が低い部局の調査をしたところ、非適合品購入理由に「やむを得ないとはいえない」内容がありました。部署ごとの取り組みに差があることから、判断基準の統一と周知が必要です。また、生産から廃棄までのライフサイクル全体を考慮して商品を選ぶなど、さらなる意識向上を期待します。
- ・ **エコオフィス活動**（実績報告書P12,13参照）
調査者によって評価に差があるため、評価基準の明文化や違う部局同士でのチェック等の工夫が必要です。

② 環境活動状況

- ・ **環境法令の遵守**（実績報告書P16参照）
不適合件数が16件でした。不適合案件について、2023年度中に改善済みまたは改善予定が確認されており、再発防止のためのチェック体制を整えていることは改善への努力が見られます。しかし、環境法令の不遵守というあってはならない状況が続いていることは大きな問題です。環境法令遵守の意識向上と、不適合0にすることが必要です。